ともだちのときちゃん

ときちゃんとひなちゃん

1年　M・Nさん

さつきちゃんは、わたしににている。わたしは、なんでもこうどうがはやくて、いろんなことをしっているから。そして、ときちゃんは、おねえちゃんににている。

ときちゃんはよくみている子だとおもう。さか下さんのスカートのもようとか、アリンコとか、カメのこうらの中、サンマのことも。みえていないこともあたまの中でそうぞうしてみえている。わたしのおねえちゃんのひなちゃんも、ときちゃんににている。ひなちゃんは、しゃべるのがとくいではないしふくをきがえたりたべたりするのはおそいけど、目がいい。小さなものをみつけるのがじょうず。たとえば目のふちについているとれたまつげを「なんかついてるよ」といってつまんでとってくれる。それにやさしい。わたしがないていたらそばにきてあたまをよしよししてくれる。ときどきわたしは、ひなちゃんがなにをいっているのかわからなくてこまることがある。けれど、ひなちゃんは、さみしいときにそっとそばにきてくれる。人のきもちをかんじるのがとくいだとおもう。ひなちゃんはこころの目もいいのかな。

わたしのすきなばめんがある。ときちゃんとさつきちゃんがコスモスばたけでくもをみているところ。「もっとなにかいいたいとおもったけど、気もちにぴったりのことばがうかんできませんでした。どんなことばでもいえないような気もちでした。」わたしもてがみをともだちにかくとき、こころをぱっとてらすようなことばがうかんでこないことがある。そんなときはそのままおくってしまう。てがみだとそれでおわりになってしまうけれど、ときちゃんとさつきちゃんはこのときいっしょにいる。うまくいえないけれど、二人でいっしょにおなじくもをみているからわかるきぶんがある。わたしも、ひなちゃんといっしょにいるときこころがふわぁっとしてたのしいことがある。これからも、ひなちゃんとそんなじかんをたくさんすごしたいな。